

施策評価シート (令和3 年度の振り返り、総括)

作成日 令和4 年 06月 10日

施策 No.	4	施策名	生涯学習の推進
主管課名	生涯学習課	電話番号	0285-82-7150
関係課名	文化課、スポーツ振興課、自然教育センター、科学教育センター、プロジェクト推進課		

1. 計画 (Plan)

施策の対象	市民						
対象指標名	単位	令和2 年度実績	令和3 年度実績	令和4 年度実績	令和5 年度実績	令和6 年度実績	令和6 年度見込
人口	人	78,874	78,144				

施策の目標	市民が生涯にわたり自主的・積極的に学習に取り組み、市民一人一人が学んだことを社会生活に活かす等、生きがいを持って心豊かに生活できるよう、支援の充実を図ります。
-------	---

成果指標設定の考え方及び指標の把握方法 (算定式など)	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習に関する講座数及び参加延べ人数は、生涯学習課、図書館、文化課、スポーツ振興課、自然教育センター、科学教育センター、で行った講座数の合計とする。 ・出前講座数及び参加延べ人数は、生涯学習課での集計結果とする。 ・図書館利用者数及び貸出冊数は、真岡市図書館、二宮図書館及び西分館図書室の集計結果とする。 ・まちのステーション整備は「真岡市新庁舎周辺整備基本計画」の整備スケジュールと事業の進捗状況とする。
-----------------------------	--

成果指標名	単位	平成30年度 基準値	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和6 年度 目標値
市民講座数	目標値	203	206	210	213	217	220	220
	実績値		99	138				
市民講座参加延べ人数	目標値	14,381	14,505	14,629	14,752	14,876	15,000	15,000
	実績値		3,625	8,153				
出前講座数(実施講座数)	目標値	173	178	184	189	195	200	200
	実績値		48	55				
出前講座参加延べ人数	目標値	4,879	4,903	4,927	4,952	4,976	5,000	5,000
	実績値		946	1,234				
まちのステーション整備	目標値	基本構想策定	事業者募集	契約・設計	設計・建設工事	建設工事	オープン	事業化
	実績値		事業者募集等	契約・設計				
図書館利用者数(3施設)	目標値	241,856	243,485	245,114	246,742	248,371	250,000	250,000
	実績値		133,910	144,649				
図書館貸出冊数	目標値	287,152	289,722	292,291	294,861	297,430	300,000	300,000
	実績値		236,635	243,033				

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・市民は、生涯にわたり自主的・積極的に生涯学習に取り組む。 ・行政は、市民や自主団体の生涯学習活動を支援するため、学習機会や学習の場の提供、学習環境の整備に努める。
-------------------------	---

2. 実行 (Do) →個別事務事業の実施による (事務事業マネジメントシート参照)

3. 検証・評価と今後の方向性 (Check&Action)

(1) 施策目標達成に対する要因分析と課題 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)

・市民・出前講座については、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの講座等を中止したため、令和2年度の実績は大幅に減少している。3年度は再開できたものもあったが、コロナ禍以前の状況までには至らなかった。

・図書館についても、新型コロナウイルス感染症の影響により、施設の休館等を実施したため、実績は減少しているが、利用人数の減少幅に比べ、貸出冊数の減少幅は小さく、コロナ禍で外出等が制限される中、読書等への需要はむしろ高まっている可能性もあると思われる。また、学習室の閉鎖や利用時間制限等も利用人数が減った理由として考えられる。

・まちのステーション(複合交流拠点)整備については、事業者選定委員会により選定された事業者と、市議会の議決を受けて契約を締結し、基本設計に着手した。

生涯学習に係る事業や社会教育施設の運営については、多くの人を対象とするため、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受ける結果となり、市民に対し継続的な学習機会と場の提供を図り支援するという目標達成は不十分であった。

しかし、コロナ禍で生活様式が変化中、市民の学習への意欲や需要は高まっている可能性もあるため、こうした状況下においても、少しでも多くの機会と場の提供を図ることが課題となる。

また、まちのステーション(複合交流拠点)整備については、施設整備のみならず、開設に向け様々な関連業務等の計画準備が必要となる。

(2) 今後の方向性 ((1)の要因分析を踏まえ、施策目標達成に向けた方針を示す)

・講座等については、これまで対面による実施がほとんどであったが、新型コロナウイルス感染症や高齢化等を鑑み、オンライン、配信等の実施手法を調査研究し、機会の提供を確保していく。また、今後更なるコンテンツ充実のためには、指定管理者や外部委託等の活用も検討していく。なお、対面による講座の開催についても、コロナウイルス感染防止をふまえ1回の参加人数を減らし開催回数を増やす等の対応をして実施していく。

・図書館については、令和3年1月に電子図書館を導入し、令和3年度末でコンテンツ数5,120点、貸出し回数2,642回であり、引き続き電子図書館についてPR、充実を図っていく。

・施設運営においては、社会教育施設の多くは築30年以上が経過しており、その機能を適正に保ち安全で快適な施設を提供していくためには、経年劣化に対する修繕やバリアフリー化等の時代に応じた改良が必要であり、今後多くの費用が見込まれるため、今後「真岡市公共施設再配置計画」において、施設の集約等についても積極的に検討していく。

・まちのステーション(複合交流拠点)整備については、「遊ぶ・学ぶ・にぎわう」の機能を併せ持つすべての世代の交流の場となる複合交流拠点として令和6年度中の開館を予定されているが、関係部署との連携を図り、新施設への図書館機能移転や既存施設(二宮・真岡西)を含めた新たな管理運営体制の構築に向け準備を進めていく。

